



木の門型フレームによる大空間を実現した透析治療室

ウッドデザインの進化を訪ねて 新柏クリニック 2016年受賞 優秀賞（林野庁長官賞）



千葉県柏市にある「新柏クリニック」は透析専門クリニックである。透析治療は、一般的には週3回の通院で1回あたり4時間ほど行なう。木質感があふれるこの病院を建築した目的、その効果について、前院長の木村靖夫さんに話を聞いた。

—新柏クリニックの概要を教えてください。

人工透析専門の120床の診療所です。「森林浴のできるクリニック」をコンセプトに開放的な空間を目指してきました。建築としては、看護のしやすさと患者の安全安心のため透析室を一室空間にしており、耐火集材の柱と梁を門型状に連続させて、広々とした空間としています。透析室の天井と外部の軒天井はヒノキを使っています。また、2017年にはリハビリを兼ねた散策ができる「めぐりの庭」、2020年には糖尿病専門の診療所である「新柏クリニック糖尿病みらい」が完成しました。

—病院の木造・木質化に取り組んだ経緯は何ですか。

当時、施設を建て替えたいという希望をずっと持っていたので、全国さまざまな施設を視察していました。しかし、これだ、というものがなかなか見当たらなかった。そんなある時、テレビ番組で木造・木質の大型建築物の特集を見ました。

—「めぐりの庭」はどのような目的で生まれたのでしょうか。

クリニック前の空き地を利用し、患者さんの運動公園を目指した庭を作ってはどうかと考えたことがきっかけです。車椅子でも回遊できるスロープや、ちよつと小高くなった丘のような場所があり、歩くだけで運動になります。実際、万歩計をつけて計測したところ、通常、透析患者の場合、1日4000歩ほどを目標に歩くところを、80代の方で8000歩歩いている例もあります。運動量が圧倒的に多くなっています。ただ道を歩くだけではなく、道に遊び心のあるサインがあったり、スタツフのご家族と一緒につかった鳥の巣箱があったりと、気持ちよく散策できるような工夫もしています。歩けるという自信がつかうことが大切で、そうなる意識も変わってきて、例えば買い物に行ったりするときもあえて遠いところまで歩くようになった、などの意見もあります。

—2020年には糖尿病専門の診療所である施設もできました。これも素晴らしい木の建築ですね。

「新柏クリニック糖尿病みらい」は糖尿病治療に特化したクリニックです。透析療法を受ける方の約半数は糖尿病由来であり、食事、運動、薬物療法の3つで治療を行います。ここにも快適な空間を提供したいと考え、木と緑をふんだんに使った施設としました。エン



木村靖夫さん。木を使ったクリニックで確かな効果を感じているという

—設計を進めるなかで、特にこだわった点はどこでしょうか。

患者さんや治療を待っている方々にとって快適な空間であることが最も大切です。当時、新型インフルエンザが流行したこともあり、患者どうしが2メートル以上離れなければならぬという条件もありました。患者同士が対面ではなく、頭合わせのベッドレイアウトにしてベッドの間隔も十分にとりながら、門型状の木のフレームで空間を包むようにしました。これで動線を確保しながらも、木の温もりにも包まれるような新しい透析室になりました。窓は大きくとり、植栽の木々がよく見えて四季を感じられるようになりました。外光が差し込み、室内はとも明るいの、過度な照明も必要ありません。日光が差し込むおかげで、空調も最小限ですみ、ランニングコストを抑える効果も見られます。



糖尿病みらいも木材をふんだんに使い、居心地がよい

トランスを入ると外光が明るい「森の待合」があります。診療の流れに沿った待合いと、運動・食事療法を行うスタツオをひとつながりの空間にして、庭を囲むように配置しました。空間は鉄骨の柱とカラマツの梁、ヒノキの天井の混構造になっています。近年ではデジタル技術による設計加工も進んでいるので、複雑な屋根の形もできるようなりました。ここも非常に居心地のよい空間と患者さんには高く評価をいただいています。

—今後の展望を教えてください。

クリニックですから、まずは患者さんが「癒やされる」ことが大切です。癒しを感じていただけるように、木材を利用していくことで、その良さが再認識されるのではないかと思います。

もともと里山があったこの場所に、「健康」と「緑」をテーマにして患者さんだけだけでなく、地域にも癒しを与える場所をつくりたいと思っています。いまある3つの施設、空間も含めて「森林浴のできるメディカルケアタウン」づくりを目指しています。

—患者さんからはどのような声がありましたか。

透析治療は滞在する時間が4時間と長いのですが、私どもの患者さんは透析をスタートしてから10〜15分くらいで皆さん、寝ていらつしやいます。これは木がもたらすリラックスマ効果だと思っています。透析クリニックはビルの中につくられることも多いので一般的には壁に覆われた空間になりやすいと思いますが、木に包まれた開放感があるおかげで、やっぱりこの空間はいいね、という声をたくさんいただいています。患者さんの方々もふさぎがちになったり、不安になったりといった心配もあると思いますが、この空間ではリラックスできているようです。

—木造にして、以前の施設との違いを強く感じられていますか。

施設の引越し前と引越し後に患者さんへアンケートをとり、その結果を分析しました。旧クリニックでは、気に入っているところについて「人物や設備」が多かったのに対し、移転後は「建物・設備」の出現比率が多くなりました。

また最近1週間の気持ちの分析結果では、「緊張、不安」や「抑うつ、落ち込み」などの陰性気分を低下させる効果がある有意差をもって認められています。通院や治療に対するネガティブな気持ちが軽減されることで、日々の暮らしも前向きになれると感じています。



透析患者に必須の運動を促進するための場「めぐりの庭」

—クリニックで働いている方々にも良い影響があったとお聞きしています。スタツフも空間の開放感や窓の向こうに四季を感じられることなどに良い印象を持っているようです。看護師募集では、ホームページからの公募で対応できている状況です。スタツフの定着率も高く、居心地の良いクリニックになっているかなと感じています。地域の中学生の職場体験を実施しているのですが、病院というところが敷居が高いイメージがあったと思うのですが、実際に内部を見てみるとすごい気持ちのよい場所だね、と中学生に好評です。